
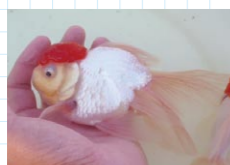


金魚の種類わかるかな

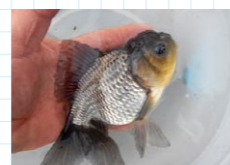
金魚の図鑑を完成させよう！

しょうてんがいには、ひとつのおみせごとにきんぎょをかっています。ごうけい30しゅるいのきんぎょがいます。30のみせをまわって、きんぎょずかんをかんせいさせましょう。

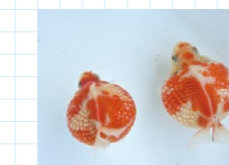
のマークをめじるしにきんぎょすいそうをまわってください。




ひんしゅ ()
頭の赤い肉龍から頂鶴を連想せるところから命名。中国では「紅頭」英名は「レッドキャップ」。日本で大変人気のある品種。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



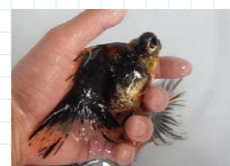
ひんしゅ ()
中国で藍文魚。昭和30年頃中国から日本に到来。中国では、三つ尾、四つ尾で背ヒレのある金魚を、上から見た姿を「文」の文字に見立て「文魚」という。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



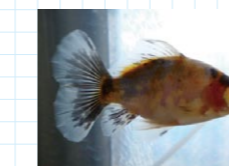
ひんしゅ ()
中国では珍珠鱗(チンシュリン)。白いうろこが真珠の見えることからパールスケールと呼ばれている。特に丸いパールは「ピンボンパール」と呼ばれる。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
明治時代にアメリカ人・フランクリンバックカード氏の依頼により、秋山吉五郎氏が琉金と三色出目金の交配で作出。「まだら」の英名である「キャリコ」と命名。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



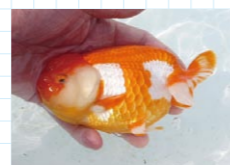
ひんしゅ ()
明治時代に中国より渡来。色合いは黒、赤、三色出目金がある。目が出ているため擦り傷をおこしやすいので注意が必要。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
日本の朱文金がイギリスに輸出され、プリストル地方で改良された品種。尾びれがハート型をしているのが特徴。平成10年頃日本に導入された。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
江戸時代に中国より到来。当時珍しい物は「おらんだもの」と呼ばれていた。肉瘤が獅子の頭を彷彿とさせたことから、「オランダ獅子頭」と命名。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
たまごの様な形から卵虫とよばれ江戸時代に原型(マルコ)の金魚が中国より到来。品種改良を続け現在の形に。金魚の王様、高価な物は数十万円取引される。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
金魚の産地である熊本県長州町で独自に継承・発展したオランダ獅子頭の系統。ジャンボ(jumbo)という名の通り、大きくなれば50cmを超えるものもいる。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
新しい品種で、黄金に輝く大変縁起の良い金魚。人類が最初に出会った金魚はこのような色だったかもしれません。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
永らく門外不出とされていたが昭和30年頃中国から日本に到来、やまと錦魚園が大量生産に成功。下まぶたに大きな水泡(内部はリンパ液)をもつ。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
中国原産の金魚で、日本へは昭和50年代後半に輸入。蝶のような尾を持つことから命名。白と黒のバンド模様を「バンド」、赤と黒を「レッサーバンド」と呼ぶ。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
江戸時代中頃 中国から琉球(沖縄)を経て薩摩(鹿児島)に持ち込まれた。琉球を経て渡来したことから「琉」金と名付けられた。人気のある品種。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
明治30年頃中国より到来、上を向いた目の特徴。清時代には存在していたといわれている。英名は「セレステル」天体という意味。ほとんど目は見えない。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
歴史が古く、江戸時代後半には品評会が行われた。第二次世界大戦中に絶滅したが、大和郡山の西川金魚農場は、三代にわたり復元に努められた。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
らんちゅうに東錦を交配させ、作出。東京都水産試験場 場長 長沢兵次郎氏の尽力により、現在に体型になった。英名は「キャリコランチュウ」。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
らんちゅうと江戸錦を交配。その固体にもう一度らんちゅうを交配させ、原形が出現。その後、さらにらんちゅうをかけて固定化。平成8年に正式な品種として発表。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
宮城県加美郡取沼で1922年に発見された鱸の長いフナの様な魚。野生化した金魚説、フナと金魚の交雑説がある。
☆魚取沼一帯は生息地として国の天然記念物に指定 かいやさき ☆☆☆☆☆



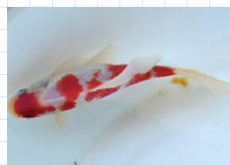
ひんしゅ ()
明治25年初代秋山吉五郎氏によって三色出目金とヒブナ及びフナ尾の和金の交配によって、作出された。手に入りやすく、丈夫で飼いやすい。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
名前から日本産の金魚と思われがちだが、実は江戸時代に日本に入ってきた中国産金魚。尾びれが1本のフナ尾、尾が開いているのは三つ尾と金、四つ尾と金。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
明治時代に、オランダ獅子頭とらんちゅうの交配により作出。作者(秋山吉五郎氏)の一字をとり命名。第二次世界大戦中に絶滅、その後各地で交配され復元。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



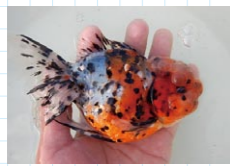
ひんしゅ ()
輸出された日本の金魚からアメリカで作出された。長い尾をなびかせて素早く泳ぐ姿が彗星を連想させるためにこの名がついた。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



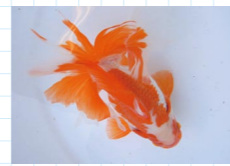
ひんしゅ ()
口先と各ヒレの計6箇所が赤く、他の部分は白い。体色は、色変わり前の稚魚に人工的に調色して作り出される。尾張地方では六鱗、三河地方では地金という。
☆愛知県の天然記念物 かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
金魚の祖先でヒブナに近い品種、一番多く生産されている金魚。一番小さいサイズを「小赤」と呼び、金魚すくいに使用される。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
昭和18年頃、横浜でオランダ獅子頭と三色出目金を交配し、作出。関東地区にちなんで命名。人気が高くいろいろなバリエーションがある。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
江戸時代、大阪らんちゅうと琉金と交配して作られた。大きく反転する尾は独特で優美な泳ぎから「水中のパレリーナ」や「金魚の女王」と呼ばれている。
☆高知県の天然記念物 かいやさき ☆☆☆☆☆




ひんしゅ ()
東錦のなかでもこの品種は、体は長手、頭に赤が入り、体色は浅葱色、尾踏に入る黒色の蛇の目模様が良いといわれ、愛好会で大事に系統が維持されている。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



ひんしゅ ()
昭和30年頃中国から日本に到来。やまと錦魚園が大量生産に成功。見たそのまま、茶色の金魚ということで命名。英名は「チョコレート・オランダ」。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆



ひんしゅ ()
江戸時代から島根県で飼育されている。名前の由来は諸説あるが珍しい物を「ナンキン物」と呼ばれていたからという説や中国の「南京」由来説などがある。
☆島根県の天然記念物 かいやさき ☆☆☆☆☆



ひんしゅ ()
透けて見える赤が紅葉のように美しい品種。桜錦との違いは、網透明鱗性という特殊な鱗で、キラキラする鱗と通常の鱗が混在しているのが特徴。
めずらしさ ☆☆☆☆☆ かいやさき ☆☆☆☆☆

まちの中の金魚 いくつ見つけられるかな?

30品種!!!
金魚タペストリー
お目見え!!!



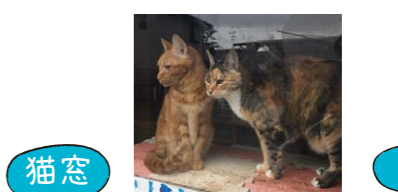
金魚水槽 商店街ぶらり

かわいい小さな水槽から、球形、自販機型やショーウィンドー体型、商店街店主によるオリジナルの金魚水槽。金魚さんもお客様を毎日お出迎え。



金魚カフェ

古商家を改造した柳楽屋で、泳ぐ金魚を見ながらお茶しませんか。水槽を埋め込んだテーブルもあります。トイレはバリアフリー。



猫窓

常福寺の隣の窓にご注目。丸まる肥って四角くなってしまった猫が住んでいます。何匹いるかな。見れた日は、きっといいことがおこります。

金魚箱

K coffee 前の金魚広場に登場! 2トンを超える圧倒的な水量と濾過槽を誇るオーバーフロー方式の水槽。水槽をぐるっと囲むカウンターで、金魚を見ながら至福の一杯をどうぞ。日差しで角度でレンズ効果でゆらゆら虹ができる時も!

大和郡山は、江戸時代から始められた金魚養殖が盛んで、金魚の三大養殖地の一つとして知られ、毎年「全国金魚すくい選手権大会」が開催されています。まちのあちこちに金魚池(養魚場)があります。



金魚灯籠

城下町の風情をいまここに。灯りに照らされゆらゆらと優雅に泳ぐ金魚たち。京都銀行前と箱本館「紺屋」前に設置されています。



金魚改札機

「金魚のお部屋・おうちデザインコンテスト」最優秀賞作品が、「さくら倶楽部」店頭にお目見え!

